



TMSコンサルテーションセンター  
✉ [consult-tms@tandem-ms.or.jp](mailto:consult-tms@tandem-ms.or.jp)

TMS普及協会 コンサル 検索

# タンデムマス通信

Vol.  
15

2021.11



NPO法人 タンデムマス・スクリーニング普及協会  
<http://tandem-ms.or.jp>



## 愛媛県の現状と課題

### ～拡大新生児スクリーニングの取り組みを中心に～

愛媛大学大学院医学系研究科 小児科学  
講師 濱田 淳平



#### ●愛媛県の検査体制

愛媛県の年間出生数は年々減少傾向が著しく、2019年に初めて10,000人を下回り、2020年は9,042人でした。分娩取扱施設も集約化が進み、現在29施設（助産院2施設を含む）となっています。

新生児マススクリーニング検査は、以前は愛媛県立衛生環境研究所で施行されていましたが、現在は3年毎の契約で県外の検査機関（大阪市環境保健協会など）に委託しています。

愛媛県の検査体制の課題としては、精密検査の集約化が十分行えておらず、各地域の拠点病院で対応している現状です。今後、拠点病院間での連携を深めて、追跡調査を行い、精度管理に努めることが重要と考えています。また、これまで県内で同意書の活用が徹底されていませんでしたが、2021年10月より、県内で統一した同意書が整備され、運用が開始されました。

#### ●拡大スクリーニングの取り組み

ちょうどこの情報誌がお手元に届けられる直前の2021年10月に、我々は熊本大学小児科、KMバイオリジクスの協力を得て、ライソゾーム病5疾患（ファブリー病、ポンペ病、ゴーシェ病、ムコ多糖症1型・2型）、脊髄性筋萎縮症、重症複

合免疫不全症の計7疾患を対象に、拡大新生児スクリーニングを開始しました。県内の全ての地域を対象に行う拡大スクリーニングとしては、中国四国地方で初となります。

#### ●拡大スクリーニングの現状と課題

我々は、愛媛県内どの地域で出生しても、ご家族が希望すれば検査を受けられる体制を目指して分娩取扱施設と連携し、全29施設（100%）の参加を得ることができました。課題としては、前述の通り、従来の新生児スクリーニングと拡大スクリーニングの検査機関が異なるため、ろ紙を共有することが難しく、専用ろ紙で3スポット余分に検体採取が必要という点です。

中国四国地方で先行して開始する立場として、検査数を増やし、データの蓄積により精度管理を向上させ、拡大スクリーニングの有用性を示すことが責務と考えています。現在、リーフレット、ポスター、ホームページなどを作成して、拡大スクリーニングの啓発を行っています。まだ、開始まもなくですが、当初の予想を上回る、同意率が80%程度の分娩施設もあり、順調なスタートと考えています。